

価値創造戦略

社会課題の解決と同時に経済価値を創出する事業の成長ストーリー

エプソンは、全ての事業活動において、社会課題解決に貢献できることを標榜し、重要テーマ(マテリアリティ)を定めて取り組んでいます。中でも、価値創造戦略は事業成長を持続的に実現するための戦略であり、企業経営の根幹となります。この戦略においては、具体的な取り組みテーマ(サステナビリティ重要テーマ)およびKPI(推進目標・指標)を設定することで、PDCAサイクルを回し、アウトカム/インパクトである経済価値の創出と社会課題の解決に確実に結び付けています。



本章では、サステナビリティ重要テーマ・KPIの切り口から価値創造の具体的な提供価値や取り組みをご紹介します。

エプソンの価値創造戦略

PICK UP

複数ある取り組みテーマの中から、代表例として、以下の取り組みをご紹介します。

今回ご紹介する価値創造の具体的な取り組み

紹介する取り組みテーマ・KPI		具体的な取り組みを紹介する事業 KPIを達成するためのイノベーション事例
マテリアリティ、 サステナビリティ重要テーマ	取り組みテーマ/KPI	
 循環型経済の牽引	お客様のもとでの環境負荷低減 環境負荷低減に資する商品・サービスによる削減貢献量の最大化* * 商品・サービスが会社のGHG排出量の削減に資する量を定量化したもの KPI 商品・サービスによる削減貢献量	オフィス・ホームプリンティング事業 【オフィス・ホームプリンティングイノベーション】 削減貢献量を可視化することで、エプソンの環境負荷低減への貢献を具体的に示し、ビジネス成長と削減貢献量の増大につなげる
	デジタル化・自動化による生産性向上 インクジェット技術と多様なソリューションにより、商業・産業印刷のデジタル化を主導し、環境負荷低減・生産性向上を実現する KPI 商業産業向けのインクジェットプリンター平均売上伸長率(対前年)	商業・産業プリンティング事業 【商業・産業プリンティングイノベーション】 大判プリンターを使用する生産現場の課題を解決し、業務の効率化を実現するエプソンのクラウドソリューションEpson Cloud Solution PORT
 産業構造の革新	ロボットを用いた自動化による労働力不足の解消 KPI 労働力不足解消数(エプソン社内プロジェクトの効果ベースで換算)	マニファクチャリングソリューションズ事業 【マニファクチャリングイノベーション】 多様な事業で培われた総合的な技術力とサポート力により、生産システムの自動化を推進
	労働環境・教育環境の改善 リアルとリモートを組み合わせた公平・自然で快適なコミュニケーション環境の提供 KPI 導入企業数またはパートナー数 スマートかつ携行型ディスプレイによる良質な学びの機会創出と学びの格差緩和 KPI ・共創・協業による現地実証プログラム数 ・一般教育、社会課題啓発での実証回数	ビジュアルコミュニケーション事業 【ビジュアルイノベーション】 全ての人に学びの場を提供したい 途上国での綿密な実証活動を経て、共創によるビジネス化へ向けた具体的構想へ

マテリアリティ



循環型経済の牽引

サステナビリティ重要テーマ

お客様のもとでの環境負荷低減

オフィス・ホーム
プリンティング事業



取り組みテーマ

環境負荷低減に資する商品・サービスによる削減貢献量の最大化*1

*1 商品・サービスが社会のGHG排出量の削減に資する量を定量化したもの

KPI (評価手法)

2023年度

目標値 → 新しい算定ロジックによる算出開始と目標値策定

実績 → 新しい算定ロジックにより、A3カラーインクジェットプリンターの削減貢献量を算定開始 2023年度実績: 15.1千t-CO₂e*2

2024年度

目標値 → 前年以上

*2 詳細はP.30参照

機会と リスク

環境意識の高まりを背景とするペーパーレス化などから、印刷需要は減少傾向にあると想定しています。また、オフィスの分散化やエネルギー価格・部材費・人件費高騰に伴い、印刷にかかる消費電力、メンテナンスコストなどもお客様の負担増になるリスクがあります。

一方で、エプソンのインクジェット複合機は、現在オフィスで主流となっているレーザープリンターに比べ、消費電力が少ないという環境面や交換部品が少ないなどの利便性の面で強みがあります。また、内部構造の違いから小型化でき、設置スペースを必要としないことも特長です。ワールドワイド(WW)のオフィス・コンシューマーのプリント市場(インクジェット+レーザー)は、COVID-19感染拡大前である2019年度時点で、ユーザー購入金額ベース(サービス含む)で10兆円を超える規模と想定しており、このうち約8割をオフィス向けのレーザープリンターが占めていると想定しています。こうした中、当社のオフィス市場でのプレゼンス(シェア)は台数ベースで未だ約1~2%に過ぎず、当社にとって未踏の市場機会が十分にあると考えています。

成長 戦略

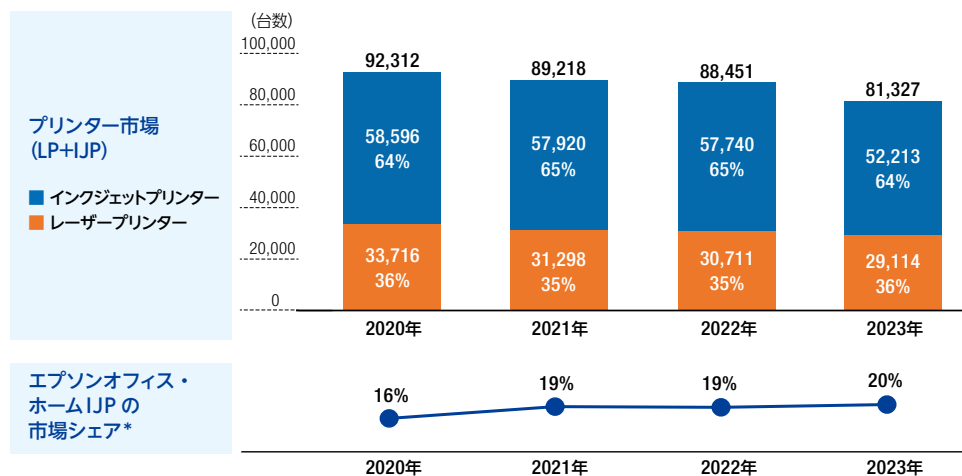
エプソンのインクジェットプリンターは、インク吐出に熱を使わない[Heat-Free Technology]による電力消費の抑制に加えて、シンプルな構造による定期交換部品やメンテナンス頻度の少なさ、大容量インクタンクによる消耗品交換頻度の少なさなど、環境負荷の低減につながる多くの特長があります。また、トナーが、石油由来のポリエステル樹脂など、多くを地下資源で構成しているのに対し、水系顔料インクの主成分は水であり、よりサステナブルな材料を使用しているということもいえます。これらは「Epson 25 Renewed」で掲げる環境への貢献を実現する上でカギとなります。

地球全体の課題である環境問題への取り組みにさらに貢献するため、カギとなるエプソン独自の提供価値を備えたプリンターのラインアップの拡大や、私たちのインクジェット技術

の環境負荷低減における優位性を伝える活動を継続し、レーザープリンターからインクジェットプリンターへのテクノロジーシフトの実現に取り組んでいきます。

また、お客様の使用環境や困り事を理解し、印刷機器の運用や管理、消耗品の管理などのツールを提供し、印刷に関するさまざまな業務負担やストレスを軽減することで、お客様の利便性や生産性の向上を実現し、未永くエプソン商品を使い続けていただけるよう、印刷の進化に取り組んでいきます。

■ WWプリンター市場に占めるエプソンのシェア



* オフィス・ホームIJP台数 ÷ WWプリンター市場台数 (IJP+レーザー)

出典: IDC Worldwide Quarterly Hardcopy Peripherals Tracker 2024Q2 Share by Brand, Color Laser 69ppm以下、Mono Laser 90ppm以下プリンターには複合機を含む。本資料からの転載を禁止します

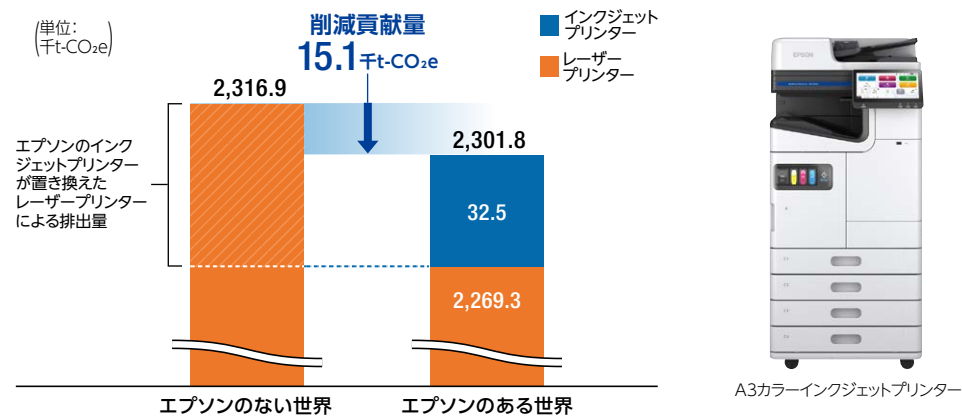
KPIの達成につながるオフィス・ホームプリンティングイノベーション事例

削減貢献量を可視化することで、エプソンの環境負荷低減への貢献を具体的に示し、ビジネス成長と削減貢献量の増大につなげる

エプソンは、自社におけるGHG排出量を削減することはもちろんのこと、商品・サービスを通じて、お客様のもとでの環境負荷低減を目指しています。そのためには、環境負荷低減への貢献を具体的に示し、お客様に選んでいただくことが重要です。そこで、まずはオフィスプリンティングにおけるボリュームゾーンであるA3カラーインクジェットプリンターにフォーカスして、削減貢献量を算出し開示しました。お客様に対して公正な情報になるように、WBCSD（持続可能な開発のための世界経済人会議）が公開したガイドダンスを参照しつつ、第三者機関の確認に基づいて算定ロジックを策定しました。その結果、2023年度の実績として、エプソンのA3カラーインクジェットプリンターにおいて、印刷における電力消費の抑制など15.1千t-CO₂eの削減貢献量があったことを示すことができました*3。このように削減貢献量を商品の環境性能として示すことで、より多くのお客様に使っていただくことを目指します。より多くのお客様に使っていただくことでエプソンのビジネス成長につながり、その結果、削減貢献量を増大させることができます。

*3 みずほリサーチ&テクノロジーズ株式会社の算出方法確認のもと、世界市場の主要なレーザープリンターの公開されている生涯CO₂排出量の加重平均と、自社A3カラーインクジェットプリンターの生涯CO₂排出量との差別に、自社A3カラーインクジェットプリンターの当該年度の販売台数を乗じた値

■ A3 カラーインクジェットプリンターの削減貢献量（2023年度実績）



本事例が寄与する社会課題解決

環境負荷低減 (削減貢献量の最大化)

社会へのインパクト

RE100の目標達成に向けて 環境負荷低減のため導入

Acer Group 様

A3カラーラインインクジェット複合機 /
A3インクジェット複合機を導入



使用シーン

当社は、RE100に参加しており、2035年までに再生可能エネルギー100%を目指す取り組みを進めています。そのような中で、エプソンのビジネスプリンターの消費電力量、CO₂排出量が少なく、環境負荷低減に大きく寄与できる点が当社の方針に沿うものであり、導入を決めました。また、導入を検討するに当たっては、このような削減貢献量を提示してもらうだけでなく、PoC (Proof of Concept) を通じて検証してもらいました。

これまで使用していたほかのプリント方式での困り事もヒアリングしてもらいましたが、インクジェット複合機はシンプルな構造のため、メンテナンスのための定期的な交換部品点数が少なく、メンテナンスにかかる時間を短縮し、生産性を向上することができている点は大きな魅力です。

複数のオフィスや多くの従業員の印刷管理をする必要がありますが、EPA (Epson Print Admin) を活用することで、印刷ログのデータを追跡することができるため、情報セキュリティを確保しながらも、印刷コストを低減することができています。また、ERS (Epson Remote Services) を使用し、機器の状況を瞬時にモニタリングすることができるなど、プリンターを効率的に管理ができている点にもとても価値を感じています。



WF-C20600 AM-C4000 WF-C879R WF-C579R

* 記載はグローバルでの型番。日本での型番は左から
LX-6050M / LM-C4000 / PX-M7090FX / PX-M880FX

マテリアリティ



産業構造の革新

サステナビリティ重要テーマ

デジタル化・自動化による生産性向上

取り組みテーマ

インクジェット技術と多様なソリューションにより、
商業・産業印刷のデジタル化を主導し、環境負荷低減・生産性向上を実現する

KPI (評価手法)

2023年度

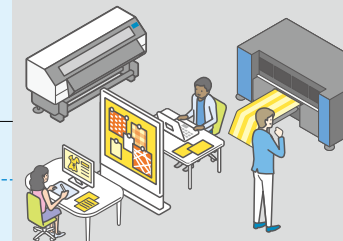
目標値 → 商業・産業向けのインクジェットプリンター平均売上伸長率(対前年) 10%

実績 → 対前年1%

2024年度

目標値 → 対前年3%

商業・産業
プリンティング事業



機会と リスク

商業・産業印刷の生産現場では、消費者ニーズの多様化に加え、環境への配慮、近消費地生産による印刷現場の分散化、エネルギー価格・部材費・人件費などのコストへの対応などが求められています。また、印刷現場の分散化に伴い、お客様の利用シーンや商品の使われる場所が変化し、おのずと解決しなければならないコストやセキュリティ面などでの困り事も変化します。利用シーン全体で困り事を広く捉え、お客様のビジネス拡大に役立つソリューションを提供することが機会になると考えています。

リスクとしては、商業・産業向けの大型印刷設備の購入意欲や、投資は景気動向の影響を受けやすい点、変化が大きく、多様化するお客様のワークフローに追従した製品とサービス対応が常に必要な点が挙げられます。

成長 戦略

エプソンのインクジェットデジタル印刷は、独自のマイクロピエゾ技術により、精細なグラデーションや微妙な色調の再現が可能で、デザインの可能性を広げます。また、デジタル印刷は、従来のアナログ印刷と比較して生産工程を大幅に短縮できるため、多品種少量の商品を短納期で効率よく、低コストで生産することが可能です。

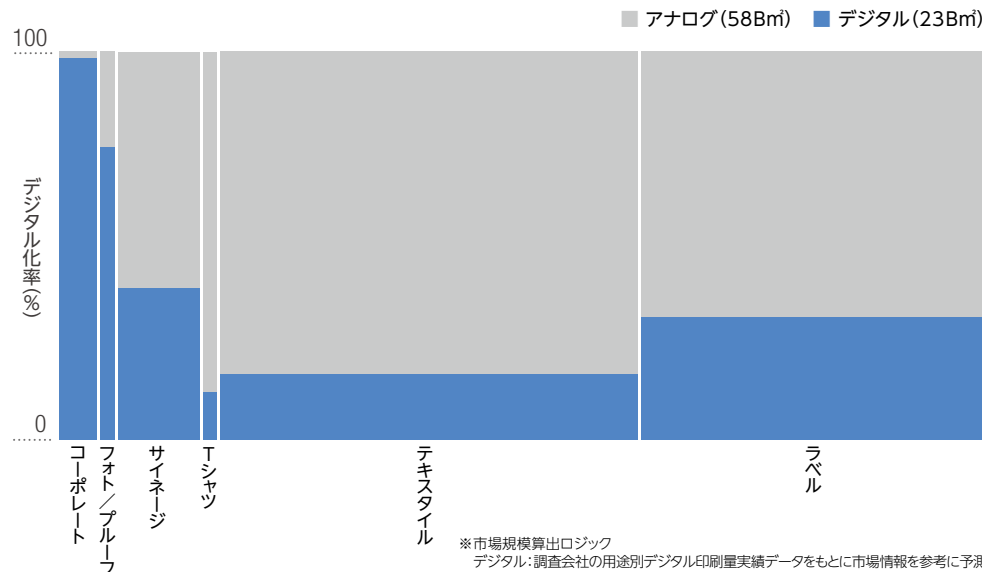
これらの強みを活かしたインクジェット技術のプラットフォームを幅広い商品・サービスで展開することで、多様な消費者ニーズ、環境負荷低減、高生産性、分散化などの課題を解決していきます。

特に商業・産業向けのプリンターを使用する生産現場のニーズとして高い「生産拠点間での生産のばらつきをなくす正確な色合わせと稼働管理」「作業者のスキルに依存しない保守サービス」に応えるため、エプソンでは2020年から分散印刷を支援するソリューションEpson Cloud Solution PORTを提供しています。これは、複数拠点に分散して設置されているプリンターの稼働情報や、エラー状態などを一括してタイムリーに把握できる遠隔モニタリングソリューションです。提供開始以来、エプソン独自のカラーマネジメント技術

Color Control Technologyや生産工程管理機能を追加するなど、よりお客様のビジネス拡大のお役に立てることを目指し、提供サービスの拡充や使い勝手の改善に順次取り組んでいます。

お客様の環境負荷低減・生産性向上に寄与する商品と、それを誰もが、より簡単に扱えるソリューションを組み合わせることで、継続した成長を目指します。

■ 商業・産業プリンティング市場規模 (2025年度想定)



※市場規模算出ロジック
デジタル: 調査会社の用途別デジタル印刷量実績データをもとに市場情報を参考に予測
アナログ: アナログは、デジタル化可能なアナログ面積とし、調査会社の用途別アナログ印刷量実績データをもとに市場情報を参考に予測

KPIの達成につながる商業・産業プリンティングイノベーション事例

大判プリンターを使用する生産現場の課題を解決し、業務の効率化を実現するエプソンのクラウドソリューション Epson Cloud Solution PORT

Epson Cloud Solution PORT は、プリントの生産現場を支えるエプソンプリンターとエプソンがIoTでつながることで、日々のプリンター稼働状況やエラーの情報を分析し、生産工程の改善に貢献します。例えば、遠隔モニタリングによるアドバイスでダウンタイムの削減と作業者のスキルに頼らない保守サービスを実現しています。また、エプソン独自のカラーマネジメント技術、RIP ソフトウェアEpson Edge Printや測色器SD-10など、エプソン純正のテクノロジーを組み合わせることで、高い信頼性と高精度の色合わせが可能となり、複数台の機種の色差を埋め、分散印刷を実現しています。

提供サービスの拡充や使い勝手の改善にも取り組んでおり、お客様のメディアやインクなどのコスト実績を表示、集計できる機能の追加により、プリントにかかるコストを簡単に見積もれるようになりました。また、店舗用アプリケーションEpson Craft Designerを用いて、スマートデバイスで保存されている写真や画像を簡単に編集・デザインし、その場で注文することができるようになるなど、引き続きお客様の生産性の向上に貢献していきます。



本事例が寄与する社会課題解決

環境負荷低減・生産性向上を実現

社会へのインパクト

導入前に比べて 約3倍の業務効率化を達成

株式会社ディスカバリーコア 様

大判プリンター SC-R5050L、測色器 SD-10、Epson Cloud Solution PORTなどを導入

当社は展示・イベントの企業として、企画提案から施工撤去までワンストップでの提供を強みにしています。経済産業省のものづくり補助金2023年14次公募の「デジタル枠」の採択が決定し、レジニンク搭載機 SC-R5050Lと測色器SD-10などが補助対象となりました。採択決定のポイントになったのは、実機の近くにいないくても、複数台の大判プリンターを遠隔操作できるEpson Cloud Solution PORTによるDX化の構築だったと考えています。

これまで、インク残量はモニターの前に監視カメラを設置してチェックするなど、苦労していましたが、Epson Cloud Solution PORTの導入により、各機のインク残量もひと目で分かるようになり連続運転の効率化が図れました。また、メディアやインクのコスト実績を集計するシミュレーション機能もあり、顧客との打ち合わせでもその場で見積もりを提示できます。ポケットサイズのコンパクトな測色器SD-10は、さまざまな場所で誰でも扱える上に、今まではExcelに都度打ち込んでいた測色したデータはクラウド上に保存できます。こうした利便性もあり、導入前に比べて約3倍の業務効率化が図れている印象です。

サイン事業部
制作チーフディレクター
齊藤 憲司 様



マテリアリティ

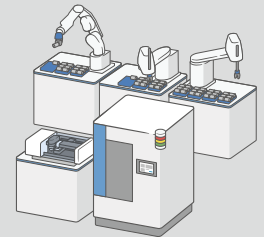


産業構造の革新

サステナビリティ重要テーマ

労働環境・教育環境の改善

マニュファクチャリング
ソリューションズ事業



取り組みテーマ

ロボットを用いた自動化による労働力不足の解消

KPI (評価手法)

2023年度

目標値 → 労働力不足解消数*1 28,000人

実績 → 25,000人

2024年度

目標値 → 29,000人

*1 エプソン社内プロジェクトの効果ベースで換算

機会と リスク

先進国での生産年齢人口の減少や新興国における高齢化の進展、さらに世界的な人件費の高騰により、ロボットを用いた自動化需要は拡大し続けています。またAIを含む周辺技術の高度化は、ロボティクス技術の活用範囲の拡大の後押しとなり、自動車産業・電気電子産業以外の製造業やサービス業においても自動化ニーズが高まっています。自動化のご相談をいただくお客様の業種・業界は非常に多様化してきており、当社の取り組みにおいても、医療機器・食品・物流分野などへのさらなる顧客開拓により、お客様の生産革新に向けた取り組み支援を拡大していきます。

一方で、自動化需要の高まりに伴い、自動化設備を提供する業界の競争の激化や市場価格の引き下げがリスクになると捉えています。さらには、設備の設計や設備製造・立ち上げといった自動化技術に関わる人材の確保も難しくなってきており、今後の成長の阻害要因の一つとして、動向を注視しています。

成長 戦略

エプソンは、スカルロボット世界No.1*2のシェアを連続13年獲得しています。その源泉は、ロボットの高速・高精度な性能や、多様なニーズに対応できる高機能なプログラミングソフトに加え、幅広いラインアップにあります。お客様ニーズへの迅速な対応には、ラインアップを柔軟に広げられる仕組みが必要です。エプソンではこれを「次世代プラットフォーム」とし、集中的に開発投資を行ってきました。今年度より、この次世代プラットフォームを用いた新商品を順次発売していきます。

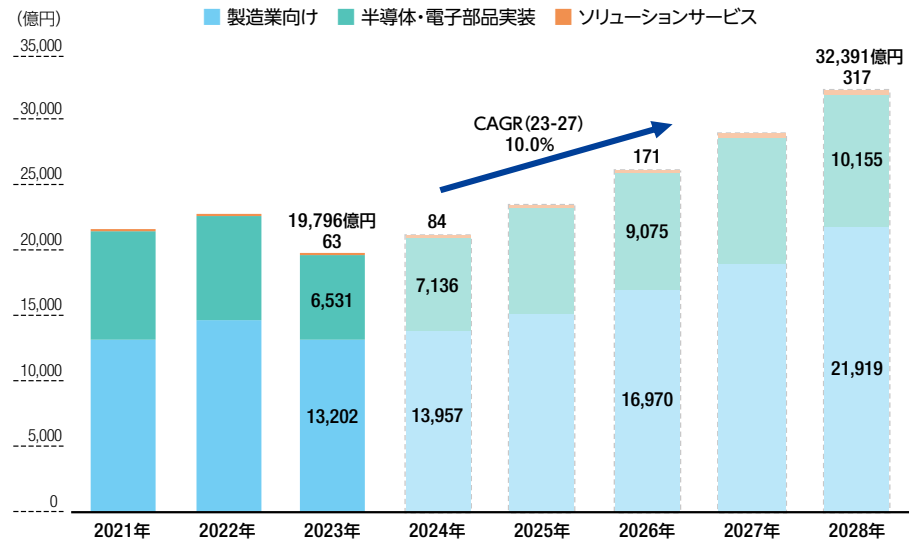
加えて、自動化の経験が少ない、またソフトウェア開発経験のないお客様にも使いやすいプログラム開発ソフトウェアEpson RC+Express Editionを合わせて提供することで、お客様の導入障壁を下げます。今後は、デジタル活用によりお客様接点を強化し、複数サービスの組み合わせによる価値提供の拡大を目指します。

*2 産業用スカルロボットの2011～2023年の金額および数量ベースの出荷実績において
(株式会社富士経済「2012～2024年版ワールドワイドロボット関連市場の現状と将来展望」調べ)

今後加速する自動化需要の拡大に向けては、注力業界を定め、お客様へのダイレクトアプローチの強化によりお客様ニーズの適時収集を行い、商品開発を強化していきます。さらには新規領域への拡大に向けた探索活動にも着手し、プロジェクト体制と戦略テーマ化により推し進めます。

一方で、自動化需要の高まりに伴い、競争環境の激化も想定されます。その中で私たちはビジョンの実現と事業の成長のため、事業構造改革による筋肉質な収益構造の実現とサプライチェーンの最適化による事業基盤の強靱化に取り組んでいきます。

■ 自動化全体市場



出典 株式会社富士経済「2024年版ワールドワイドロボット関連市場の現状と将来展望 FAロボット編」
(2024年見込み、2025年以降予測)

KPIの達成につながるマニュファクチャリングイノベーション事例

多様な事業で培われた総合的な技術力とサポート力により、生産システムの自動化を推進

エプソンは、「省・小・精」の技術に加え、画像処理技術、センシング技術など、多様な事業で培ってきた技術やデバイスを持ちます。さらに、自社の生産現場で培った自動化ノウハウを組み合わせることで、他社の追従を許さない、高速・高精度、小型・軽量・スリム、省電力、そして使い勝手の良いロボットを提供することができます。生産現場の自動化は、ロボットを導入するだけでなく、さまざまな製造ノウハウをベースとした工程の設計・構築も必要です。

生産現場の自動化は、単にロボットを導入するだけで実現できるものではありません。ロボットは正確な作業ができる一方、柔らかく位置が定まらないケーブルをつかんだり、取り付け位置にばらつきが発生し得るコネクタに確実にケーブルを差し込んだりする作業は不得意で、工程の設計・構築にはノウハウが必要です。エプソンは、画像処理技術を用いて位置の検出を行い、微小な力を感じられる独自開発の力覚センサーをロボットに組み合わせることで、課題を解決しました。

エプソンは、自社の小型精密組立工場で培ってきた自動化ノウハウを活かし、お客様の生産システム構築をサポートします。また、地政学リスクへの対応を起因とした工場の拠点再編など、グローバルでの柔軟かつ一貫したサービスの提供に当たっては、ワールドワイドの販売拠点や生産拠点を最大限に活かして迅速に対応していきます。



本事例が寄与する社会課題解決

労働力人口減少への対応、労働環境の改善

社会へのインパクト

生産コストの高騰を企業が変革する好機と捉え、生産現場を改善

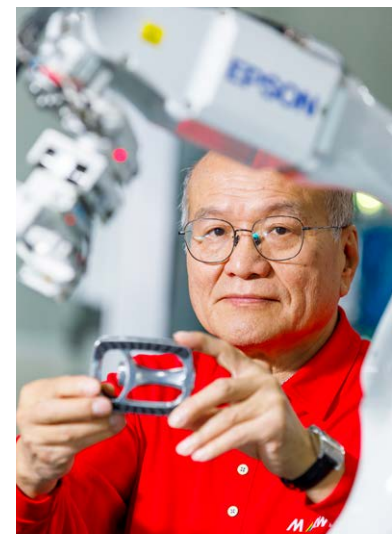
MARWI Taiwan Industrial Co., Ltd. 様

60年以上にわたって発展してきた台湾の自転車産業は、かつて空洞化の危機に直面しましたが、産業界、政府、学界の努力により、世界トップクラスの製造・販売数を維持しています。Marwi Groupは世界最大の自転車ペダルメーカーの一つであり、台湾、インドネシア、オランダ、チェコ、ドイツに生産拠点と事業所を設けていますが、台湾の経済部による生産現場のスマート化支援を受けて、台湾を中核拠点として据え直しました。2013年には自動生産ラインを設置する投資を行い、翌年には台湾の自転車産業界で初めてロボットを導入した実績があります。

この全面自動化を目指した投資の中で、高速・高精度の特長を持つエプソンの6軸ロボットを活用しています。また、ロボットとビジョンシステムを組み合わせることで、多品種生産のニーズに対応するとともに、効率的に高品質な製造ができるようになりました。

台湾拠点の生産における人作業と機械の割合は約3:1であり、この業界においては機械の割合が非常に高くなっています。積極的に自動化ソリューションを活用することにより、当社の業務効率を約20%向上させることができています。

MARWI Taiwan Industrial Co., Ltd.
会長
Patrick Pai 様



6軸ロボット
C4シリーズ

マテリアリティ



産業構造の革新

サステナビリティ重要テーマ

労働環境・教育環境の改善

ビジュアル
コミュニケーション事業

取り組みテーマ

- ①リアルとリモートを組み合わせた公平・自然で快適なコミュニケーション環境の提供
- ②スマートかつ携行型ディスプレイによる良質な学びの機会創出と学びの格差緩和

KPI (評価手法)

2023年度

目標値 →

① 導入企業数または
パートナー数
2社

②-1 共創・協業による
現地実証プログラム数
20件

②-2 一般教育、社会課題
啓発での実証国数
—

実績 →

2社

29件

実証国選定

2024年度

目標値 →

継続+新規開拓1社以上

累計：40件

実証国：2カ国



機会と リスク

デジタルアートをはじめとするイマーシブなアート体験への投資は世界各地で拡大しており、また、家庭でも、映像ストリーミングサービスの普及に伴う大画面視聴需要は、引き続き堅調に推移しています。

また、リアルとオンラインを組み合わせたハイブリッドな環境が人々の暮らしに浸透・定着したことに伴って働き方の柔軟性が高まる一方、従業員同士のコミュニケーションにおける情報量や質に関する課題は未だ解決されていないと認識しています。そのため、情報量と臨場感を両立した公平・自然で快適なビジュアルコミュニケーション環境が真に求められ、生産性向上や創造性発揮を支援する技術進化に対する期待も大きくなっています。

さらに教育市場においては社会課題の大きさと共に市場のポテンシャルも大きいと考えます。世界では、アフリカ、南アジアなどの貧困層や女子を中心に、依然として2.63億人が不就学の状況にあります。また、学校に通っても、教育の質に課題があり、基礎的読解力・計算力を習得できなかった子どもや若者は6.1億人存在すると推計されています*1。教育市場の課題は開発途上国に限らず、先進国であっても地域や社会情勢の違いによるインフラ整備不足、それに伴う学びの場や機会の格差が存在します。デジタル技術の活用が良質な学びの機会創出と学びの格差緩和の大きなテーマになっています。そうした中で、ICT機器の一つであるプロジェクターが活躍できる領域も大きいと考えています。

一方、リモート環境構築市場の高まりにおいては、プロジェクター以外の大画面表示装置や個人端末との競争の激化をリスクと想定し、動向を注視しています。



2024年5月に発売したビジネスプロジェクター高輝度モデル。イマーシブな映像体験を演出する。



成長 戦略

プロジェクターの最大の強みは、機器を容易に持ち運びでき、大画面の視聴環境をどこでも構築できる設置自由度の高さにあります。私たちは小型・軽量・低消費電力の技術を洗練・進化させることで、これらの強みを継続的に高め、市場競争力を維持していきます。リアルとリモートを組み合わせた公平・自然で快適なコミュニケーション環境の提供においては、例えば4K相当の高画質と超短焦点レンズを組み合わせたプロジェクターを用いてリモート先の人々をリアルの場所に高精細な映像で等身大に近いサイズで投写し、あたかも同じ空間に居るような自然で臨場感のある映像空間が実現できます。オンライン会議サービス提供者との協業や自治体との共創による実証活動などの拡充により、市場の形成・拡大を加速していきます。

教育市場における学びの機会創出・格差緩和においては、教育課題の抽出や解決に向けて、長年教育分野に携わり得てきたノウハウ・知識に加え、国際協力機構（JICA）との共創により活動を加速しています。プロジェクターならではの可搬性を活かした巡回授業などによる学びの支援や、無電化／電気の限られる地域での教育・保健／衛生・環境に関する啓発活動の実施などの現地実証活動を推進し、教育や情報の格差による社会課題解決を共創で実現する事業モデルの開発に取り組んでいます。

*1 出典 JICA-国際協力機構「JICAグローバル・アジェンダ：教育」
<https://www.jica.go.jp/activities/issues/education/index.html>

KPIの達成につながるビジュアルイノベーション事例

全ての人に学びの場を提供したい
途上国での綿密な実証活動を経て、共創によるビジネス化へ向けた具体的構想へ

エプソンは、プロジェクターを主とした教育支援の知見を活かし、世界の教育環境の向上に貢献するため、JICAの開発途上国地域における教育支援のニーズに応える形で、社会課題解決を加速する事業モデルの具体化を進めています。教育普及は、途上国において生活の質と切っても切り離せない喫緊の課題ですが、さまざまな要因で普及を妨げる教育の効率と質が確保されていないのではないかと仮説を立てました。これを明らかにするために、現地実証活動を開始しました。

実証活動の一つとして行ったJICAの農業支援プログラム(SHEP)^{*2}では、プロジェクターを屋外で使用するニーズがありました。それに対応するため、明るい場所でも鮮明に映像を投写するための映像投写用スクリーンの工夫や、野外も含めてさまざまな場所での使用に対応できるように、プロジェクター使用に必要な一式(スクリーンやポータブルバッテリーなど)を持ち運び可能なセットにして提供しました。その結果、約2年間で20カ国63地点での実証活動につながりました。



ボリビアのSHEP講習において、プロジェクターの実証活動を行った例

成人向けの農業講習から子どもの基礎教育まで、多様な実証活動を通じて見出した教育の課題については、共創による事業モデル創出を通して対応を進めています。エプソンは、地域や社会情勢の違いによる学びの格差を緩和すべく、現地実証活動を通して工夫を重ね、全ての人に必要な学びの機会を提供するとともに、ビジュアルコミュニケーション事業の長期視点での成長につなげていきます。

^{*2} SHEP: Smallholder Horticulture Empowerment & Promotion

本事例が寄与する社会課題解決

地域や社会情勢の違いによる学びの格差の緩和

社会へのインパクト

アフリカでの学びの機会創出により、 将来の雇用機会の拡大に貢献

JICA ABEイニシアティブ^{*3} 奨学生

^{*3} の注釈は、裏表紙へ

私は、母国のギニアで教員をしていた経験もあり、アフリカの生活の質を向上させるためには、全ての人々が公平に教育の機会が得られる環境の構築が不可欠だと考えています。

アフリカでは、教育の機会は雇用の機会と密接に関係しています。人口の約75%が25歳以下で、その内の約70%がさまざまな理由で学校に通っていません。JICAは幅広い世代に学習の機会を提供していますが、エプソンとのパートナーシップにより、より効果的な教育環境の構築と支援の実証ができていますと感じます。開発途上国の先生や子どもたちにとって、プロジェクターを導入する場面は、時にICT機器との初めての出会いになることもあります。こうしたきっかけは、デジタル技術を使いこなすスキルを得るという付加価値を生んでいます。私はJICAのABEイニシアティブにおける奨学金制度を利用して、日本とアフリカをつなぐビジネスでイニシアティブを発揮できる人材育成プログラムのもと来日し、2023年にエプソンでインターンシップをする機会を得ました。その中でエプソンの開発途上国の学びの機会創出・格差緩和をするというコミットメントに強く共感し、現在はエプソンで働いています。開発途上国の教育市場の実態を実体験をもって知っている強みを活かして長期的な視点で潜在市場の開拓を着実に進めていきます。



元奨学生
当社 VP事業推進部
グリバリ アバス